

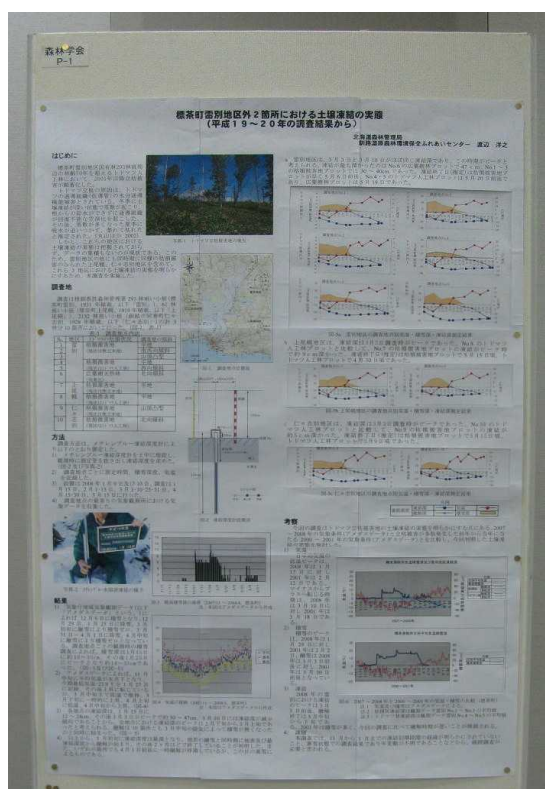
日本森林学会北海道支部大会でポスター発表

11月10日(月)、第57回日本森林学会北海道支部大会が札幌コンベンションセンターで行われました。

午前中には、「北海道の人工林資源の持続的管理と有効利用をめざして」と題してシンポジウムが開かれ、午後からは、17課題のポスター発表、4会場に分かれて48課題の口頭発表が行われました。当センターからは、「^{しべちちやうらいべつ}標茶町雷別地区外2箇所における土壌凍結の実態(平成19~20年の調査結果から)」と題して、渡辺自然再生指導官がポスター発表を行いました。

このポスター発表では、高齢級トドマツ人工林の枯損被害を引き起こした要因の一つである冬期の土壌凍結の実態について取りまとめて発表しました。発表を聞いた先生方からは、「測定当日の天候・湿度等を記載するとよい。」「解け方の特徴を教えてください。」等のアドバイスや質問がありました。

当センターでは、来年度以降もこのような機会を利用して、積極的に取組の成果を発表していきたいと考えています。



発表ポスター



発表会場の様子



説明する渡辺指導官(右から2人目)